
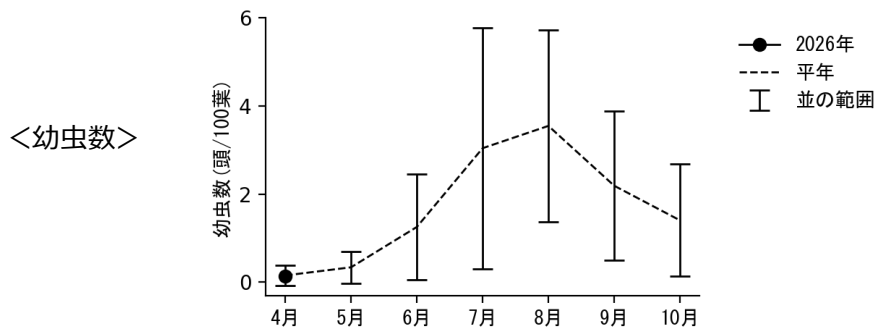
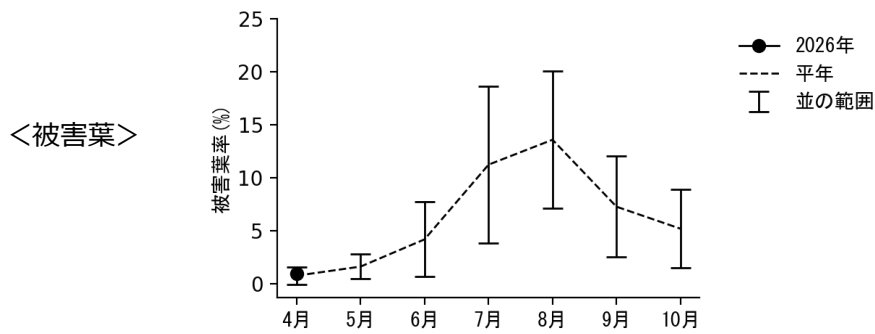


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率87.5% (平年 : 60.0%)

防除のポイント

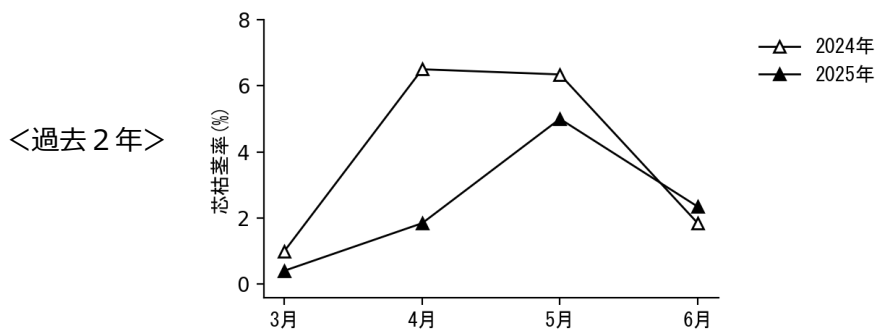
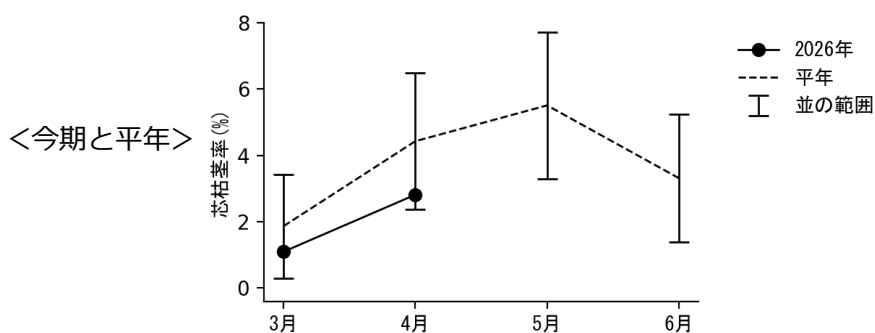
・発生初期の防除が有効であるので、被害葉がみられたら薬剤散布する。



作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
		5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (97%)、イネヨトウ(3%)
- ・発生ほ場率93.8% (平年：92.1%)

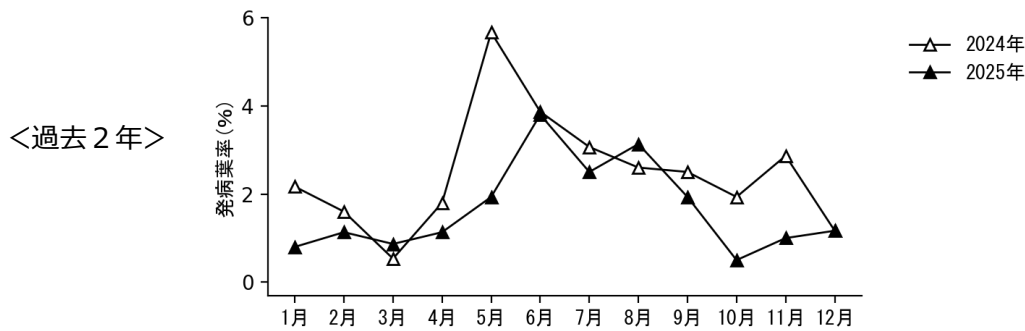
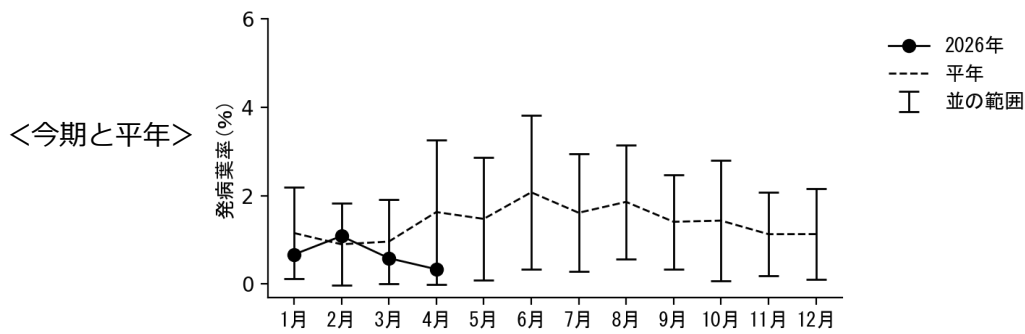
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

発病葉率の推移




- ・ 葉の発病度0.1（平年0.5）
- ・ 発生ほ場率33.3%（平年：54.0%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

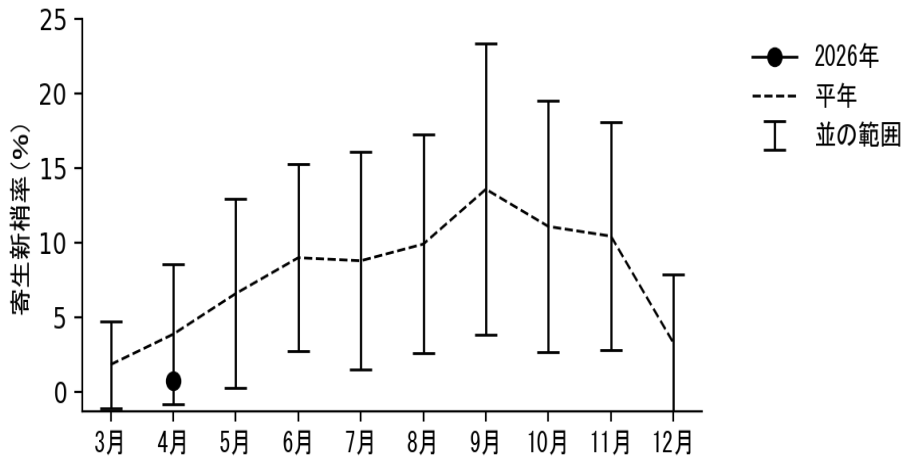


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		 <p>ユキヤナギアブラムシ</p>
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

寄生新梢率の推移

<今期と平年>




・発生ほ場率33.3%（平年：34.9%）

防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探することで、アブラムシの発見が容易になる。

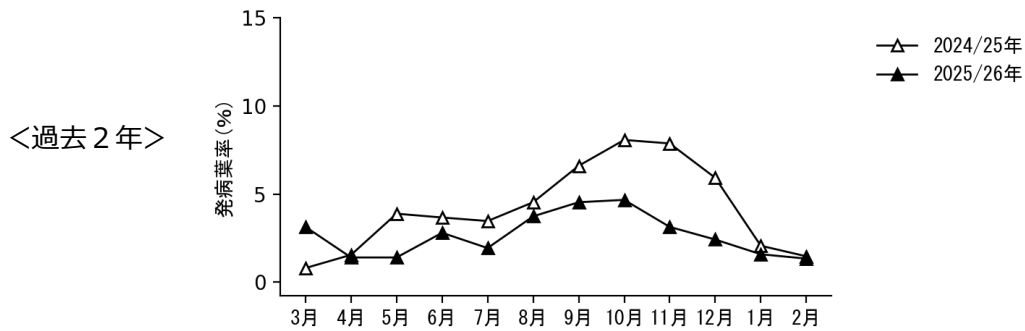
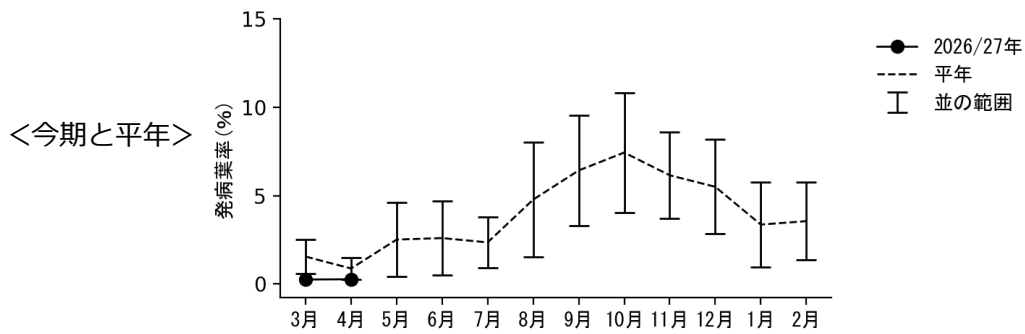


アブラムシに伴伴するアシジロヒラフシアリ

作物	かんきつ (タンカン)		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	4 月からの増減傾向	↗		
		5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



- ・ 葉の発病度0.1 (平年0.2)
- ・ 発生ほ場率40.0% (平年 : 50.0%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



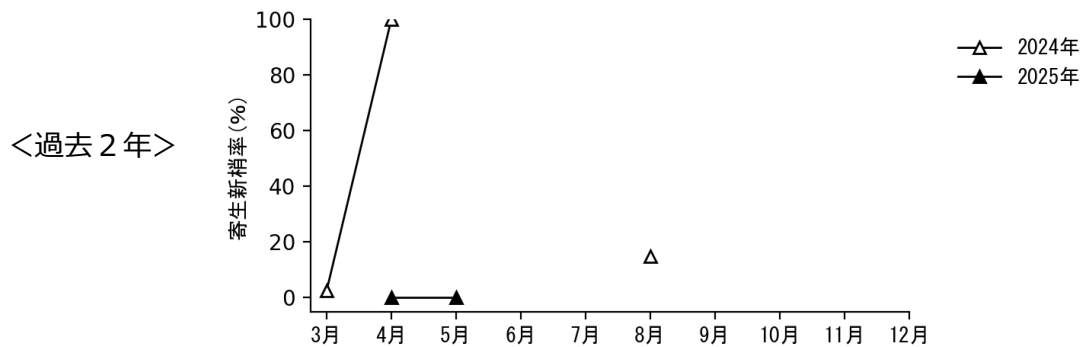
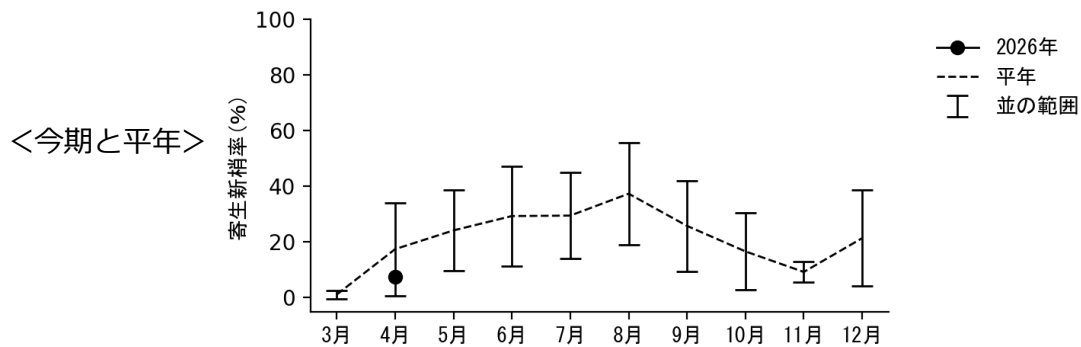
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミカンハモグリガ		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	

予報の根拠

平年の発生量の推移（↗）

調査結果


寄生新梢率の推移



・発生ほ場率100%（平年：57.9%）

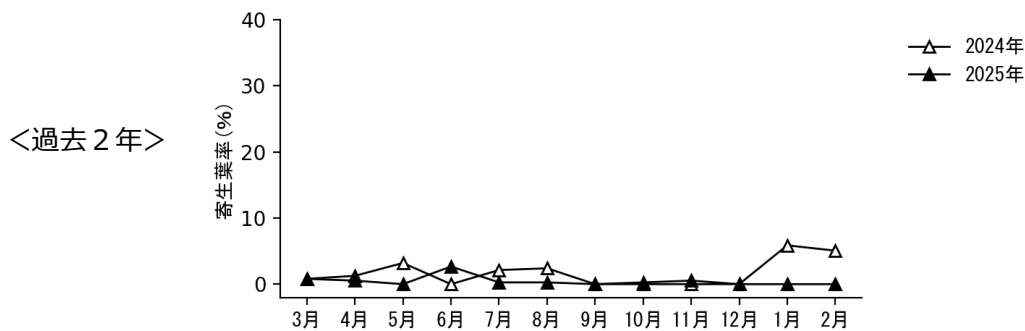
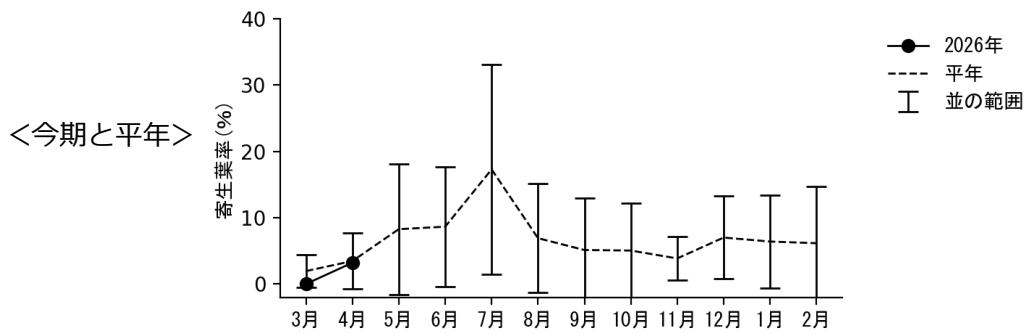
防除のポイント

- ・食害痕にかいよう病が感染して伝染源になるので、被害葉の除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島	
病害虫名	③ ハダニ類				
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並			
予報	4 月からの増減傾向	↗			
	5 月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）			

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：32.0%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

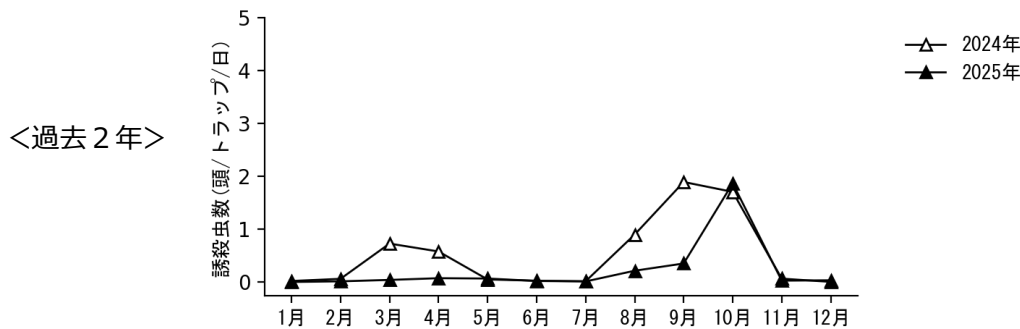
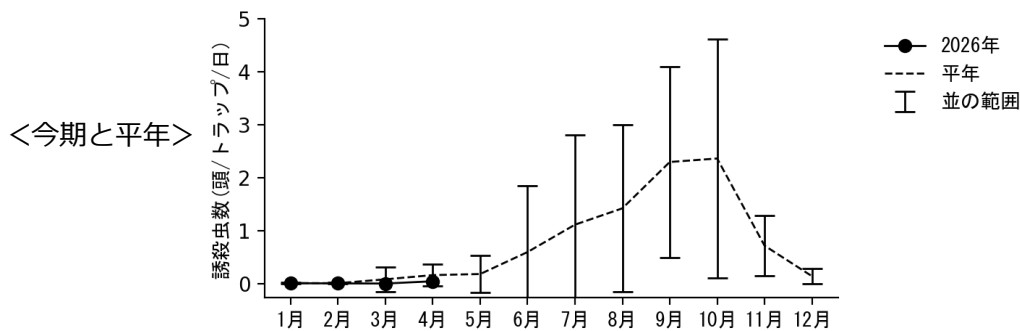


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 79.5%)

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

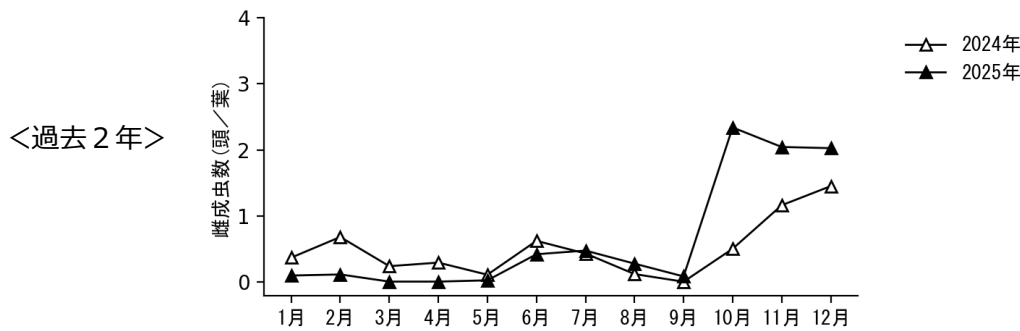
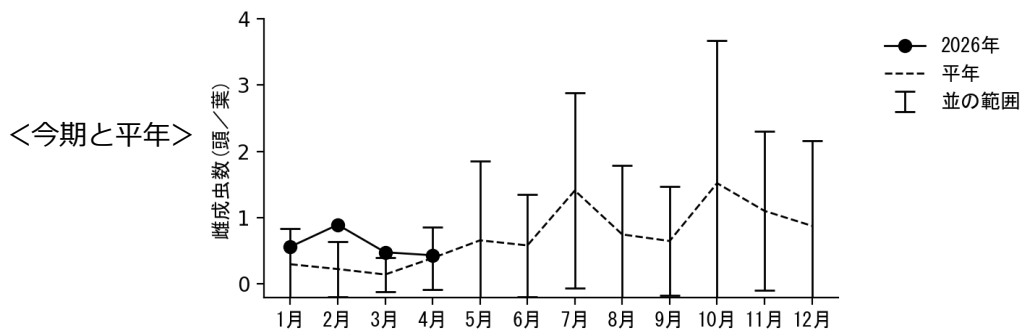


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率37.5% (平年：44.6%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

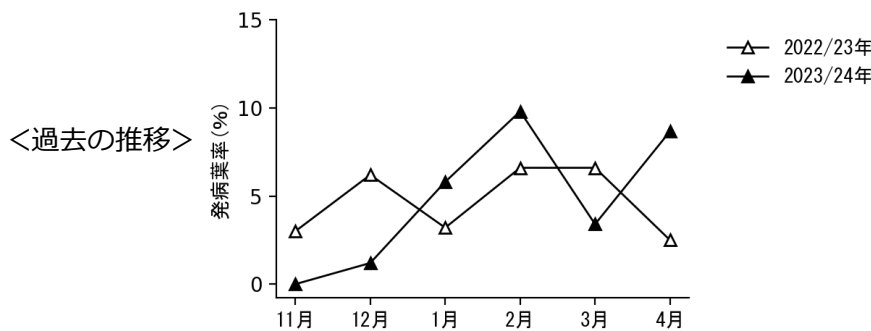
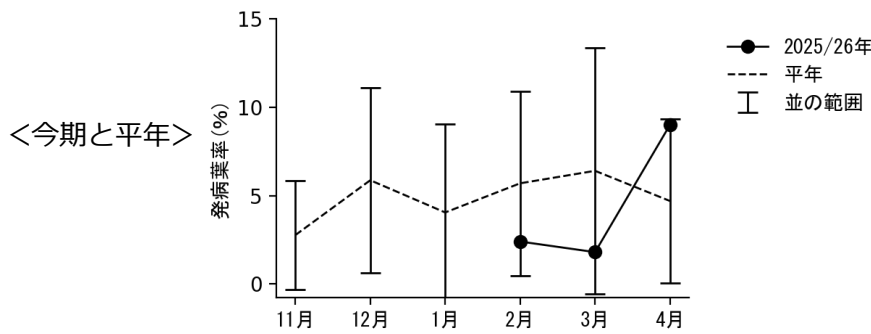


マンゴーツメハダニ

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率100% (平年 : 41.0%)

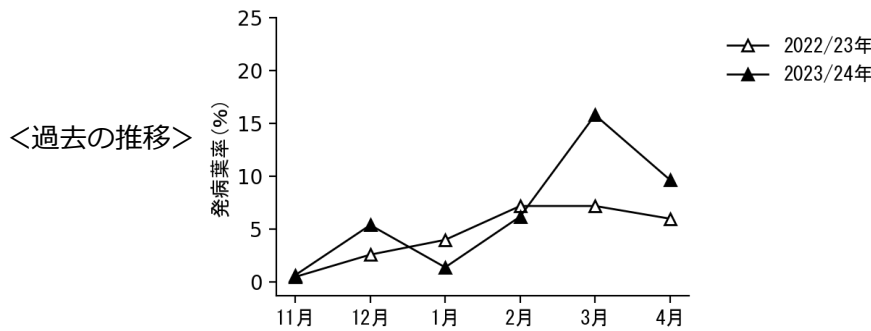
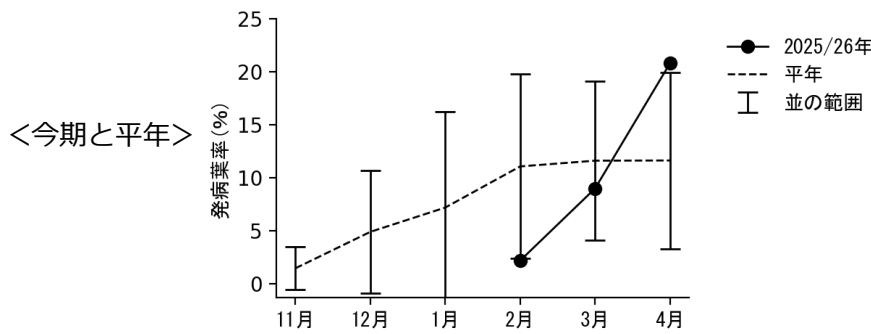
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 66.7%)

防除のポイント

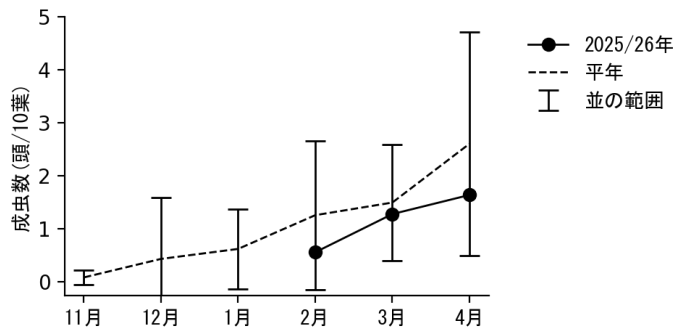
- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

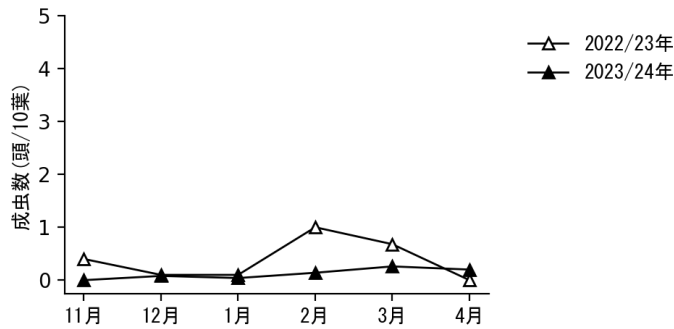
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>




<過去の推移>



・発生施設率100% (平年 : 59.0%)

防除のポイント

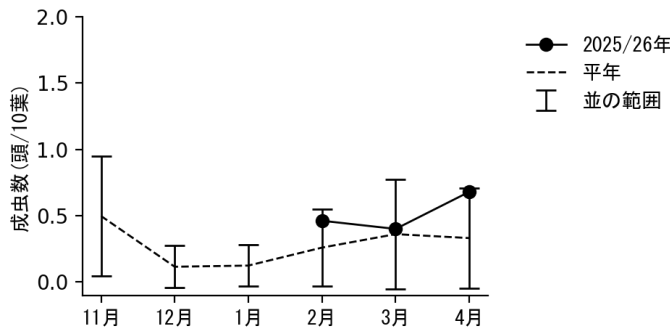
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

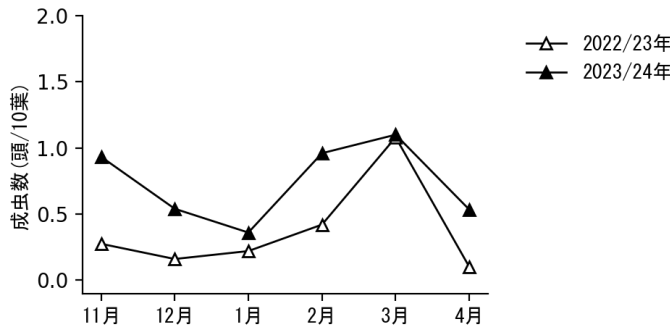
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去の推移>




・発生施設率80.0% (平年 : 41.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



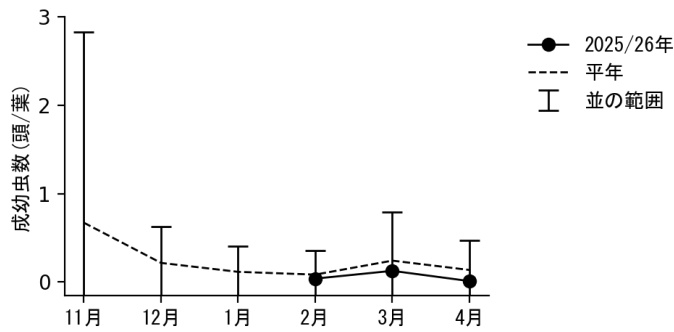
幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

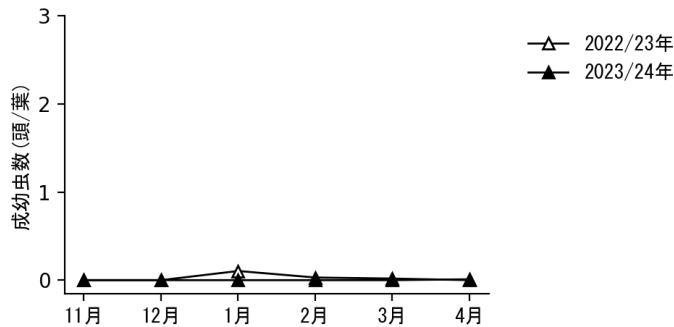
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去の推移>



・発生施設率20.0% (平年 : 10.0%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。